（明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可）（日刊）日曜日及祭日の翌日休刊　明治四十二年三月廿六日（金曜日）　第六十七號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

韓國農業啓發に就ての側面觀（中央農會々報所載）

度支部司税局長　鈴木穆氏談

國民財力の厚薄如何は一國財力の强弱に關し一國財力の强弱如何は即ち國勢の隆替に關するは固より言を待たざる處なるが抑吾人が此韓國に來りて殆ど獻身的に其啓發と誘導とに努めつゝあるに當り國勢の消長に一大關係を有する處の此國民各自の財力如何に就き韓國の現狀を觀察すれば實に憐むべきの境遇に在り、之を救ひ之を扶け以て其財力の增進を計るは即ち是れ吾人の天職にして而かも又容易の業にあらず而して其救濟の途如何唯だ之を啓發し誘導して產業の發達增進に力めしむるにあり、其所謂產業なるものに至ては固より一にして足らずと雖此韓國に於ては農業を以て其首位に置かざるべからず中に就き產額の多き米穀は最重なるものなり、然るに此農業の發達を企圖するには相當技術の下に施設改善するは當然の事に屬するも、今彼等農民の現狀より考察すれば單に種子の選擇栽培法改良等の如き專門的技術に依るのみにては或は其終局の目的を達するに難からんか、一例を擧ぐれば專門的技術啓發誘導の結果收穫の增加を見ることあるも若し其價格にして低落するに於ては囊中得る處或は終に格別の差なき奇觀を呈せん此の如き場合に於て農民少しく資力を有し販賣其時を得ば價格の平衡を保ち從て增收の報酬は僅に之を得せる結果の眞價を了し尙益々進んで農業に勵むの域に達すべし、否らざれば栽培法等の改良奬勵或は時に其効果を見ること少きに至らんも測り知るべからず。

今余が觀察したる韓國農民現下の狀態に就き一言すれば當國農民の大多數は小作農とす而して其地主との關係如何と云ふに殆んど想像の外にあり、地主は概して其自己の所有地の何れにあり又其面積の幾何なるやを知らざると共に自己の小作人の誰なるかをも知らず唯だ其中間に介在する一の機關あり即ち舍音と稱するものにして又其上に都舍音なるものありて舍音を統轄する所もあり小作料の取立小作人の撰擇決定等總て此舍音の權限に屬し小作人は殆んど制を之に仰ぐの狀態なり而して小作料は多く折半法として豫め一定の小作料を設定すること少なし故に小作人に於て孜々として耕耘栽培に勉め折角相當收穫の增加を見ることあるも折半法の結果其受くる處の利益割合に少く換言すれば例へば一石の增收を得んと欲すれば必ず二石の增收を圖らざるべからざるの悲境に住り好し又此折半法は忍び得べしとするも勉勵の報酬として一朝其增收を見るに當れば忽ち他小作農民の窺覦する處となり苞苴舍音の門に入り玆に小作人は多年親みし處の土地に離れざるを得ざるの境遇に陷ることあり小作人の境遇の憐むべきは啻に之に止まらず若し一朝自己田園の改良食等を他より借用するの必要に迫れる事あれば其擔保としては一家老少窮星踏月粒々辛苦より成れる米穀を提供せざるべからざるのみならず金利は正に五割の高率にあり而して一方苞苴入舍音之門の弊あり之を切言すれば韓國農民現下の狀態は自己の利益線或る程度以外に擴大すれば却て忽ち有力者の利益線内に吸收せらるゝの弊あり故に唯或る程度の利益線内を辿り辛ふじて一家の口を糊するに止まれり韓國小作農民の境遇豈に憐むべきにあらずや而して又之に依して韓國農民啓發の事が容易の業にあらざるを知るべきにあらずや（未完）

●新幕通信

去二十日當地居留民會評議員改撰執行の結果駒澤支店主任野上巳之助氏會長に當撰せしが翌二十一日の居留民大會に於て有志は松田、常石、下川、加來の四氏を總代として大いに撰擧行爲の不都合を詰責し且つ改撰理由六箇條を提出して撰擧會の改撰を促したり玆に於て平評議員側に於ては更らに有志總代等と合議協定し翌二十二日再び撰擧會を執行したるが其結果野心家白上業は勿論同醜類三四名の落撰を見會長として田村保吉氏副會長として山本正太郎氏當撰したるを以て正義派を標榜せる有志の喜色は滿面にあふれ午後七時凱歌を擧げて引上げたりと余は新幕前途のため祝意を表す、

文苑

●覺醒よ●　青楓

覺醒よヨボ國の民
起てよヨボ國の民
國は將に傾き倒れんとす、底事ぞ、百官群臣の何は長夜の宴に耽らんとは、ア丶汝知らずや、大韓國の國是を亂すもの、夫れ何れの賊ぞ。
長煙管をすてよ、ヨボ國の民
結髮を斷つて、漢江の流に濟めよ、ヨボ國の民。
然り、男子生れては國の柱となり、死しては須らく護國の鬼と化するの覺悟あれ。
覺醒よヨボ國の民
起てよヨボ國の民



佐倉宗吾（卅八）

眞龍齋貞水講演

越「さて此度、江戸表御屋敷にて、御慶き事これあるに依て、御一同に御酒下さる」ハアーッ、有難い事でございます　越「それに就いては、何人まかり出で御酒を頂戴したと云ふ事を申し上げなければ成らぬ、其御禮の御請書に差上げるのであるから、銘々これへ、印を捺いてくれ　名「ハ、ハアシ、有難いことでございます」江戸表の殿樣まで、何人御酒いたゞいたと云ふ、御披露と云ふのですから、一同は別に不審にも思はず、御請を致したから、是からズッと御膳部を下し置かれます、銘々御目出度い事であると云つて、結構な御料理に御酒を十分戴き、有難うございましたと控へて居りますと、正面の襖を開けて、罷り出でたのは、城代堀内玄蕃、一同は玄蕃の姿を見ますと「ヘーッ」と御辭儀をする　玄「さて一同の者、今日は御酒下賜である、然るに其方共、欠席なく罷り出で、御上の御慶事の御酒を頂戴いたすと云ふ事は、誠に結構な事である　名「有難い仕合せに存じます」　玄「就いては其方共、今日調印すると云ふ事を御請いたしたに依て申し聞けるが、此度江戸表三屋敷御普請出來、殊に若殿御誕生それ是のため、御物入り莫大であるに依て、向う三年間、二割增の年貢取立に及ぶやうとの、大殿よりの御仰せである、直ちに御請いたし、それ〳〵名前の下へ調印いたせ宜しいか、調印の次第は、向う三年間、年貢二割增に異議ないと云ふ、御請のためであるぞ」サア一同が驚いた、斯りや大變だ計略に掛つて斯う云ふ事に成つた、今更御城中へ入つて御酒を戴き、御料理を十分に食べ、其上玄蕃が更めて斯う云ふ事を云ふのであるから、否だと云ふことは出來ない殊に役人が八方から睨み詰めてゐる、此處で異議を唱へれば、必ず打縛られて、我居村へ歸ることも出來ないし、如何いふ事に成るか知れない、前の大竹村の名主の、茨の台の御處刑と云ひ、川齊多儀兵衞の家財欠所と云ひ、不當な事をする役人だから、何う云ふ事に成り往くか知れない、一同針の蓆に座するが如く、如何したら宜からうと思つて、更に生ける心地もない　玄「サア調印に及べッ　名「ヘーッ……　玄「如何だ、其方共に於ては、不承知なのであるかッ　名主「ヘ、ヘッ、只今調印いたします」據ろございませぬから、銘々が小前の者に、一言の沙汰もせずとも判を捺して仕舞へば、もう其だけの事は遵守らなければ成らぬのだから、孰れも蒼白に成つて、飲んだ酒も醒めて仕舞ひ、懷中でモヂ〳〵仕ながら、印形捺す手も顫ゑて、段々判を捺して參りました時に　玄「斯りや公津新田の宗五郎」　儀「ハッ　玄「其方宗五郎か　儀「ハア、其方儀右衞門でがす　玄「何だ其方とは……宗五郎は如何いたしたのだ　儀「ハア、先刻申し上げましたが、病氣でごせゐますから、私等ハア名代として出ましたのでごせゐます　玄「ナニ、宗五郎は病氣か　儀「ハア、案排が惡いもんでごせゐますから、病氣でごせゐます　玄「默れッ、案排が惡いから病氣は固よりの事だ、宗五郎の印形持參をしたか　儀「ハア、御酒下賜の事だから、れ前、判もつて往つてくれと云はつして、印形持參して居ります　玄「然らば其下へ捺け　儀「ハア………　玄「こりや宗五郎の印形か　儀「あーに是れ私等印形でがす、儀右衞門のハア、先祖代々の印形でごせゐます、私等印形しますか　玄「何だと、其方の印形だア　儀「ハア私等印形でごせゐます　玄「宗五郎印形持參しないか　儀「宗五郎どんの印形なら持ちましねね、御酒下賜の事だから、飲んだり食つたりした者が捺いたら宜からう、斯う云ふんで、私等ハア印形持參いたしましたのでごせゐます、宗五郎どんの印形なくつちや成らぬなら、是から引返して、宗五郎どんの印形持つて來るだけの事でごせゐます　玄「然らば名代の印形でも宜しい」



謹告

京城新報

レオポルド王の來遊を歡ふ

白耳義國王レオポルド陛下には莫斯科を經て亞比利亞鐵道により日本に來遊せらるべしと云ふ、之れ實に空前の事なりとす、世界開闢以來未だ歐羅巴の君主が東洋に來遊せられたる事なく今回のレオポルド陛下を以て嚆矢となす、此點よりするも余輩は滿腔の誠意を以て歡迎するものなり、然れども余輩はレオポルド王の來遊に就ては更に深大なる意味に於て無限の興感を禁ずる能はず、开は王が廿世紀に於ける世界三大事業の一を主宰せらるゝ最も有力なる一人たればなり、三大事業とは何ぞや、曰く米國の巴奈馬運河工事なり、曰く亞弗利加コンゴーの施政改善開拓、曰く日本帝國の韓半島改善なり、而して巴奈馬運河は前大統領ルーズベルト氏によりて代表せられ、公果改善は今回來遊せらるべきレオポルド王に依り代表せらる、韓半島の改善は我が伊藤公によりて代表せらる、巴奈馬運河はルーズベルト氏が得意の鐵腕を以て全責任を負ひ着々其歩を進めたりと雖も任期既に滿ち後事をタフト新大統領に托して去れり、公果自由國は最初關係列國の聯合政治より白耳義國の保護國となりしか兎角施政紊亂せるを以て、一時列國の物議を起したるも結局レオポルド王に全責任を負はして施政を根本的に改善する爲に白耳義國に合併することゝなれり、今やレオポルド王は公果自由國の君主として列國に對し斯國の施政改善を完ふすべき大なる責任を負へり、韓半島に於ける伊藤公の事業は抑も如何、既に三年有餘の歲月を經過すれども未だ見るべきの好績なし、之れ公果自由國の如く單に保護政治のみにては到底不可なるが爲なるべき乎、余輩は此點に於て聊か意見を有するを以て屢々伊藤公に向て注意を促したり、然れども優柔不斷なる伊藤公は一も斷せざるのみならず、輓近の動靜に依りて觀察すれば果して眞面目に責任の地に立ち韓半島の改善を計るの意ありや否を解するに苦む、老齡既に劇職に堪へずとせば速に退任して眞個の適材に讓るを可とす、然るに之をも亦斷せず人をして唯其間に杞憂を抱かしむるに止るのみ、余輩はルーズベルト氏の行爲及レオポルト王の勇氣とに對照して伊藤公の擧措に滿足を表する能はざるなり、伊藤公たるもの深く茲に反省する所なかる可らず、幸に[illegible]公果政治に多くの經驗を有し更に合併し之が君主となられたるレオポルト陛下は來遊せられんとす、伊藤公は此好機を利用して親しく陛下に就き、公果國と韓半島とに就て互に意見を鬪はさば其利益の[illegible]の斷案を下すことを得べけんとす、余輩は東西時を同ふして大難の局に當れる兩英雄が近き將來に於て一堂に會し互に胸襟を開くの機會の作られんことを望みて止まざるなり、

東京電報

▲東宮と乾元節　東宮殿下は明日還御あらせられ直に天皇陛下に御對顔あり夜韓國皇太子を訪問し乾元節祝典に參列さる（二十四日發）

外報一束

▲政府譴責輿論　英國統一黨首領バルフォア氏の提出すべき政府譴責案は政府黨が必ず多數を占むるため到底下院を通過する能はざるべし然れども國民の對政府感情は非常に强硬なるものあり而して海軍協會は英國全部を通じ國民的運動を行ふことに決したりと

▲近東問題と三國　英、露、佛三國は塞爾維國と墺太利國の最終覺書に對する塞爾維國の回答を更に墺國が不日發せんとする最後の請問書に先じて確定せしむるに決せり塞爾維國は引續き軍備解除を行ふに至るべし

▲墺國下院の決議　墺國下院に於ては墺塞形勢に就き極めて愛國的なる討議ありて新兵召集を決定し同時に獨逸が嚴密に同盟の任務を敢行するに對して親厚なる謝意を發表したり

▲日本公債の高値　諸種の日本公債は日本の好評に依り高値を保ち居れるが他の外國公債は巴里市電信員の同盟罷業の爲め商業不能となりたる影響を受け低落したり

▲哥薩克隊の集中　露國は哥薩克隊をガリチア國境に集中しつゝあり

▲日人の漁業禁止　ホノルル來電に依れば日本人を目的として布哇領海に於ける外國人の漁業禁止を規定せる法案布哇の上院を通過せり

▲清國の軍用鐵道　陸軍部は軍事上の目的を以て無錫及び江陰間に鐵道を敷設する事に決定したり尚鐵道は無錫にて上海南京鐵道に連絡する筈

▲巴里の同盟罷業　巴里に於ては將に一切東貨（商工業に關するものに至るまで）の同盟罷業起らんとす

雜報

●東朝鮮の漁業（上）

朝鮮海に於ける本邦人の漁業は南韓を中心として西は群山沖より西韓に及び一方釜山より迎日灣方面の東海岸を經て北韓道[illegible]漁業季節は一[illegible]季にして冬季[illegible]此間に於いて獨り盛況を極にするは蔚山を中心として南北約三十里に亘る東海岸における秋冬の鰤漁業なりとす今や漁業の終了期に近づき本季の漁況を詳にしたれば茲に其の狀況を報道せん

「東海岸鰆漁業の發展」

韓海における鰆漁業は從來群山沖の春漁を以て最も盛んなりとす釜山近海の秋漁は群山沖に比して遙に振はざりしが近年東海岸の漁業發達に伴ひ大に此方面に發展を見るに至れり漁業季節は陰曆十月下旬より翌年二月下旬に至る約四ヶ月間にして迎日灣沖合より機張郡に至る南北約六十浬の間を漁場とし漁期の初めは長鬐郡九龍浦を中心根據地とし次で同郡甘浦に移り更に南方蔚山郡の方魚津に移り機張郡の太邊に移り斯くして魚群に從うて南下すれども初季より終季に至るまで該漁業根據地の中心となるは前記漁場の中心點に當る方魚津にして漁季中陸上の繁昌想像に餘るものあり、本季中該漁場に集合したる漁船は香川縣の流網百五六十隻、岡山縣の流網約七十隻にして昨年十一月より本年二月末までの漁況は岡山縣組を尤とし一隻の漁獲高最高二千四五百圓最低千七八百圓平均約二千圓內外にして香川縣組は成績稍や劣り最高一千圓最低五六百圓一隻平均一千二三百圓を得概算總漁獲高は三十萬圓を越えたり、此外別に福岡山口の兩縣より鰆曳繩漁船約二十隻團体出漁をなし各隻二八乘りの小漁船にして尙且つ約二ヶ月間に最高二百圓最低百四十圓一隻平均百七十圓の收獲を擧げたり

「漁業者間の利益增進」

從來韓海の鰆漁は春秋兩季を通じ一隻平均一千圓の收獲あれば非常の大漁と稱せられしが今季は前記の如く一隻平均二千圓乃至一千二三百圓を擧げ漁業者の利益著しく增進したるは全く漁獲物運搬機關整備し魚價の昂騰を來したる結果なり數年前迄一尾の價格十七八錢乃至三四十錢に過ぎざりしも今季一尾五十錢以上最高一圓二十五錢に達し常に平均六七十錢の價格を保ちたるを以て漁獲尾數は從前に比し減少したるに拘はらず遙に漁利の增進を見たるものなり

「運搬機關大に整備す」

近年韓海の漁業中進步の見るべきものは運搬機關の發達にして石油發動機船より進んで汽船の回航を見るに至り今季該漁場に集合運搬に從事したる運搬船の主なるものは汽船小富士丸同勇魚丸の二隻石油發動機船は釜山水產會社五號船其他三四艘にして帆船は常に十隻を下らざりしといふ運搬機關の整否が漁業者の利益に極めて重大の關係あるとは右の事實に徵して明なるを知る可し

紳士錄出版の趣意

韓半島の社會的狀態は今尙は混沌たり、社會の舊組織破壞せられて新組織將さに成らんとするの時代なり、所謂破壞と建設との過渡時代なり、故に半島國民も在留外國人も皆此渦中を脫する能はず、從て各個人の信用程度を判別することこ容易ならず、之が爲に總ての取引に於て圓滑を缺くの例決して乏しからず、弊社は玆に見る所ありて紳士錄の編纂を企てたり、然るに韓半島全部に亘りて之を調査するには多くの日子を要するを以て當面の急需に應する能はす、玆に於て先づ京城龍山に在住せらるゝ日韓淸英米佛獨其他の紳士全体を擧げ豫約方法によりて出版し以て世の急需に應ぜんとす、思ふに京城龍山は目下半島の中心なり、此中心の地に在つて經營の重任に當らるゝ紳士を最初に紹介するは將さに當を得たるものなりと信す、而して揭載する紳士の部類は政治家軍人官公吏商業家工業家農業家醫師辯護士敎育家宗敎家新聞記者銀行會社敎會寺院俱樂部組合等にして社會の各階級を網羅して漏す所なし、之を以て本書は公私の實務に鞅掌せらるゝ諸君には欠く可らざる要書なりと信す、庶幾くは續々豫約御申込みあらん事を切望す、

明治四十二年三月

京城新報社

●第一小學校の卒業式

京城民團立第一尋常高等小學校にては昨日午前十時半より同校講堂に於て尋常四學年以下同五學年以上高等科の二度に分ち修業及卒業證書授與式を擧行したり先づ河合校長學式の辭を述べ次で勅語奉讀及學事の報告あり夫れより證書の授與ありたる後校長の訓示廣田統監府囑託の祝詞生徒總代高等科二學年釘宮一夫の答辭ありて式を了へ之れより生徒全体の學藝會及卒業生の茶話會を催して散會したるが來賓の重なる者は廣田囑託、中村、山口等の民會議員、林田民長代理、某第一課長及小宮次官、國分秘書官等の夫人其他五十名なりと因みに同校生徒數は一千〇六十八人（六十七八は不合格）にして高等科卒業生は男十二人、女十八人、尋常科男四十九人、女三十八人なりと

●小學校の修業生　京城民團の所管に係る尋常高等小學校にて近頃試驗を了し修業せし者及び全科卒業の諸生は左の如し

尋常科一年修業生	二四〇人
同　二年同	二二四人
同　三年同	一五四人
同　四年同	一五三人
同　五年同	一二八人
同　全科六年卒業生	九五人
高等科一年修業生	五七人
同　全科卒業生	三四人

●京城中學校新入學生　來る四月より開校すべき京城中學の入學生は目下募集中なるが既に入學の出願を爲したる者六十五名にして內十名は二年級の志願者なるが何れも尋常六年の修業生にして其他仁川、木浦、群山、鎭南浦又は母國より出願せる者十三名ありて合計七十八名なるが尙ほ續々志願者あるべき模樣なりと

●京城各學校課程改正　京城民團役所にては統監府令を以て定めたる小學校令に基き目下改正課程の準備中なるが高等女學校にては手藝科を新設する筈にて共に近々認可の申請をなす可しと

●平南鐵道の敷設費途　來る四十二年度平南鐵道の敷設費は六十萬圓を國庫より現金にて支出し十萬圓は鐵道增收によることと決定したりと云ふ

●井上理事の狼狽（本紙の記事に就て）

去る二十四日本紙所載驛屯土の價格標準なる記事は京城通信社供給の通信材料に因りたるものにて該記事中驛屯土引繼の標準は地方の米價を一石八圓と見たる小作料の純收益を基礎として算出したるが如く見ゆしを以て本社は一石八圓に疑を抱き二十四日午後電話を以て東拓調査部に地方米價に就ての問合をなしたり電話に掛りたるは調査部主任代理にして冒頭まづ曰く米價に就ての照會の如きは今後は直接井上理事に向つて爲されたし併し今日丈は井上理事に取次を致すべしとて本社照會の件を聞取りし上暫時待ち呉れと言を殘して電話を離れ十分間許りの後再び電話に掛り井上理事の代理なりとて本社照會に對する返事を述べて曰く「當會社調査部の調査に因れば地方の米價は一石二圓以上三圓までなり尤も詳細に就ては目下尙調査中なれば何れ完了せし上れ知らせを爲すべし」と通話は右にて了り本社は聞きしところを其儘昨紙に揭載せしなり而るに井上理事は如何なる都合にや昨二十五日午前別項の如き取消文を本社に送り紙上揭載を懇請し尙其上東拓本社祭日午前當直市原氏を以て言しはめて曰く昨日貴社より米價に付照會の電話ありたることは承知なれども地方米價が一石二圓以上三圓までなりと答へたる覺なし貴紙揭載の事は恐らくは電話の誤りなるべしと以上の顚末により井上理事が該記事に付て如何に狼狽せしかを知るを得べし而るにても井上氏は何が故に地方米價が一石二圓以上三圓までなりとの記事に付て斯くも狼狽するものにや

●井上理事取消文

三月二十五日貴社新聞第六十六號雜報第二面所載米價と驛屯土と題せる記事中本社が東拓會社井上理事に就て聞きしところによれば以下云々は事實無根に候間此全文を揭げ御取消相成度此段及請求候也

三月廿五日　東洋拓殖株式會社

理事　井上孝哉印

京城新報社御中

●仁龍間漢江水運模樣　仁川龍山間の復航自由となりたるを以て冬季間多くの不便を忍びて陸運に依りたる諸貨物漸く水運に依ることゝなりたれば漢江の水面は漸く活氣を呈し漢江江岸は今や活動の季に入れりと

●商業會議所の役員會　日本人商業會議所にては本年度の豫算に關し昨二十五日午後五時より役員會を開きたるが豫算總高は六千三百餘圓にして之を昨年度に比すれば一千餘圓を減じ居れりと

●本日の仁川民會問題　仁川第六民會は今二十六日午後七時より同民團役所樓上に於いて開會し仁川埋築問題に關する委員會報告の件ありたる後四十一年度追加豫算の件に就きて討議する筈なり

●巡査減員說無根　警視廳にては明年度に於て韓人巡査五百名を減員すべき方針なりと報ずる者あるに依りて管下の各警察官中大恐慌を來したるが今當局者より聞く所に依れば右は全然無根の事實なりと云ふ

●伊國震災義捐金　在鏡城下關彥之助氏の主唱に依る清津理事廳管下の本邦人有志者は伊國震災の義捐金を醵出し之れが送附に付き同理事廳を經て其の筋に願出でたり

●京城の火葬件數　本年一月より二月迄の京城光熙門外なる公設火葬場に於ける火葬數は百十五名內一月五十五名二月六十名

●水產關係者來京　鹿兒島縣水產組合長大窪七之亟同組合技師松崎彌一の兩氏は一昨二十四日來京し浦尾旅館に投宿したり

●日語學校卒業式　漢城外國語學校にては明廿七日午後一時第二回卒業式を執行す

●ハリソン氏入京　東京米國大使館書記官ハリソン氏は二十四日夜入京したりと

●中屋主計の入京　陸軍一等主計中屋彥馬氏は一昨廿四日入京し浦尾旅館に投宿す

●小池技師の歸任　來京中の木浦理事廳技師小池兵吾氏は一昨廿四日歸任したり

●小林書記官歸任　來京中の度支部書記官小林敬次郎氏は一昨日開城に歸任せり

●松永郡長の退京　來京中なりし長崎縣西彼杵郡長松永俊重氏は一昨日歸任せり

●中山財務官歸任　平壤財務署財務官中山岸次郎氏は來京中の處一昨日歸任せり

●編輯餘錄　本日某紙所載の乾元節を祝するの文が如何に研究しても意味が判からぬ、止むなく遂に讀者に問ふ（三面標參照）事とした▲拓殖會社から無意味な取消文が來たので數回電話を往復し頗る時間を費やした、實際は昨日向ふから掛けて來た事實の取消だが之を無根と云つて取消すとは隨分物覺への惡るい先生達が揃つて居ると見へる▲本欄擔當者此程より時候病に罹り引籠中なるを以て飛入りで編輯をやる處が頗る不体裁の者が出來る、大方の讀者幸に之を諒せられよ▲昨今の寒寒頗る身に害し社員の時候病に罹る者多し痛心に堪へない（廿五日エム生）

●近事片々

▲軍部　廢止の說巷間に傳はる果して之れ事實なるべき乎實際に於て獨立する價なし

▲軍部　は尙更の事なれども學部の如きも內部の一局として差支なし何ぞ斷行せざる

▲冗費　は飽迄節せざる可らず然るに廢合して差支なきもの迄存置するは其意を得ず

▲伊藤　公は道後邊では韓國に對する氣燄を吐き居るが實際は隨分へコタレ氣味也と

▲統監　政治に對する非難や殊に議會の質問には隨分神經を惱まし居るとの事ぞかし

▲道後　邊に阿嬌を連れて豪飮するも一は此煩悶を消さんが爲也とは或は異ならん乎

▲彼是　推察するに口に豪語を吐くも其實內心厭氣を催し居る事は敢て藏ふべからず

▲由來　公には負惜味強き處あり之が爲に往々心にもなき氣焰を吐く事あり穴可笑し

▲實の　所公も厭氣がさしたろうが國民も最早潔よく退任を望みつゝあり決斷肝要也

▲統監　不在副統監何事も斷せず人心何となく惰氣を生ず決して喜ぶべき現象ならず

▲政治　家は常に人心を新にする工夫なかるべからず人心倦めば國民の活氣は減殺す

▲一國　の興るや必ず國民に活氣あり人心を新にするの要は將さに茲にあり戒愼せよ

▲朴齊　純內相となり未だ幾日ならざるに快々として樂まずとの說あり果して然る乎

▲宋用　氏との關面白からずとの說あるが事實か今より斯くては前途甚だ思束なし乎

▲何れ　にしても漢城の政界は伊藤公前途の進退に就て觀望しつゝあり公の進退如何

▲五月　頃には歸任せられ何か人心を新にすべしとの說あるも未だ容易に信を置難し

▲併し　議會閉會後には何とか判然たる事にならん先づ夫迄は何事も眞暗闇ならん乎

▲ルー　ズベルト氏は愈以て亞弗利加遠征の途に就けり如何なる獲物を得來るべき乎

▲猛獅　か鰐魚か巨象か其獲物種々あるべしと雖もより以上の大獲物更にあるべき也

……六十一錢五十錢の高値を見たるが昨今に於ては日本定期界少しく小締り氣味ある爲め……相末滿位なりと云へり

●在京城成鏡南道儒生會 ……會を開き役員選擧を爲したるが其の結果會長に李敏相、副會長に槪樂、總務に朴雲……

●熊谷民長の歸京 昨二十四日夜着京せし旨電報ありたり

京城居留民團公文

京城居留民團規則第十號

明治四十一年三月京城居留民團規則第三號京城居留民團立學校職員手當及舍宅料支給規則中左ノ通改正シ明治四十二年四月一日ヨリ施行ノ件居留民會ノ決議ヲ經理事官ノ認可ヲ得タリ

明治四十二年三月二十五日 京城居留民團民長 熊谷賴太郎

第一條別表ヲ左ノ如ク改ム

舍宅料

學校名	職名	月額
中學校及高等女學校	校長	金三十圓
同	首席教諭	金二十圓
同	教諭	金十五圓
同	助教諭、舍監	金八圓
同	書記	金五圓
小學校	校長	金二十圓
同	訓導、准訓導、書記	金五圓

雜報

●京城の看護婦會

▲會長さんの男狂ひ ▲看護婦の胎兒處分▼

▲男妾けが二人 是れも某會の會長さんであるが、己れの子にも等しき樣な年配の若僧二名を自宅に置き毎日滋養分の肉を食はして養ひ置き、而して兩人の賞味するのだまだ〳〵は此會長さんが甚だしきは己れの會員に媒介せし夫は以前己れの情夫たりし者にて會長の威光を以て之を擦り付け矢張り其男は共有物と爲して居た事もありしとか、斯かる亂行をする費用の出所は何處であるかと云ふと、悉く會員が働いた日給の上前を跳たものである。

▲會員の不品行 看護婦の仕事は實に不眠不休で肉体の勞力も又容易でないが日本の其れに比して賃銀の餘りに貴き爲め是等の苦しみは金の爲めに打ち消され、ろく〳〵男狂ひを初める、讀者も知る通り看護婦に美人と云ふは殆ど皆無で臼大の尻を振り立て、髮は雨除けと云ふ黴梅に大庇に結立て見るも胸の惡くなる樣な連中が多い、ダカラ少々は持て行かないと相談が出來ぬ、斯樣な次第で彼等に多く貯蓄する者がない、是れも某會の看護婦だが何んでも太平町附近の醫院に勤務中代診と乳繰り合つた揚句因果の胤を宿したが、其兒は遂に暗から暗へ葬つたとも云ひ或は生れて後に死んだとも云ふが何れが事實かは知らねども出産の屆出でも無く又赤ん坊の顏も見へない、それで本人の孕れ腹は何時しか縮小して居たとは何んと驚いた話しではないか、イヤ斯かる事實はまだいくらも有るであらう。

▲醫師も不親切 患者が看護婦を雇ふ時は大抵醫師の宅から口を利いて雇ふのである、品行の點迄醫師が知らふ筈はなけれど技術の巧拙、經驗の有無位は職業柄直ちに判かる筈である、患者に對して親切なる醫師は左樣な看護婦は排斥して雇はしめざる樣せねばならぬ、處が左樣な事はあまり爲ない其れも其筈會長さんの日頃の運動が行屆いて居るからだ(未完)

●爆裂彈の密賣

△三刑事の密偵△高砂樓の客△二見女郎の喜

仁川市中土木業者間にダイナマイトを賣り歩くものあることを仁川署の三刑事が探知し時節柄若し暴徒等の手に渡らんかそれこそ一大事を惹起すべきなりと直に搜査に着手したる所去月末寺町二丁目山下平次郎とて以前敷島樓にて嫖名を流せし者の亭主がダイナマイト二百本雷管及び導火線等を買ひ取り又盛陽舍成澤の配下某がダイナマイト五十本花町二丁目井戸堀業古田某二百本のダイナマイトを密買したることを聞知したれば直に其の賣主を訊ねたるに何れも見知らぬ者より買ひ取りたりとて更らに其要領を得ざりしが數日前三刑事が敷島廓內を密偵中第一高砂樓の二見の客は雷管數多を所持し居るとのことを聞知せしかば其の翌朝其の客の歸りを待ち受け本署へ引致して取調べたる所全く同人の所爲と判明したり然して此男は大分縣速見郡別府町のものにて畑覺太郎(三十)と云ふものなるが昨年來仁川間組藤田某の配下となり諸種の工事に從事し居る際使用のダイナマイトを窃取し置き此頃に至り窃に賣却しては高砂樓二見に注ぎ込み居たるものなるが二見は此の先きの儘にて情交を續け行きたらんにはダイナマイト情死でも仕掛けられたるやも知れざるに刑事が早くも看破して引致し呉れたるは好き命拾ひをしたりとて喜び居れり

●新町の鼻物語

新町○○樓の吉野といへば名前程の美人ならねど花ならぬ鼻の枝振り可笑しきが珍なりとて物好きにも喜ぶ人あり开が中にも旭町わたりに住み給ふ前の檢非使の守山川の某殿と申すは世にも稀れなる美男子にれはす事とて引手あまたの花の山の色香も既に飽き給ひけん彌生は半ばの十六日の夜いざよう月の誘ふがまに〳〵噂に聞きつる吉野山の枝振り可笑しきを賞へばやと思召しホロ醉ひ氣味の足元もしどろに○○樓へこそ成らせ給ひけりかくて同樓にては其の夜某殿の御望みに委せて吉野姐をばれん枕邊に侍べらしまゐらせたるに夜半頃と覺しき頃某殿には何者に魘され給ひけんアッとばかり若るしき息を振り絞りながらハネ起き給ひたるさへあるに蘭燈の影幽かなる處見ればれん顏の色さへ徒ならず全身汗にしど濡れ給ひ胸をわさへて打ち戰かせ給ふ有樣のさてもいぶかしさよ(つゞく)

●輕便なる小食堂

先般來元日本人倶樂部跡に開始したる京城ホテルの小食堂は數多の洋室の外更らに格好なる數多の日本室を設けたれば西洋式の食堂を窮屈に感ずる人は此の日本室を選びて洋食を命ずる事を得べきは勿論洋食の外鋤燒等をも命じ得るやう至極輕便に出來居れりと云ふ

●無類の名文

左の一文は某新聞紙が「祝乾元節」として掲載せし者なるが實に近來の名文である併し吾人は不幸にして其意味を解する事が出來ない大方の讀者諸君にして能く了解するを得ば幸ひに本社迄御敎へを願ひたい

鷄林の春光將に駘蕩たらんとするの時、還た乾元の佳節に會す白岳の新翠、秘園の白鶴、聖壽の萬歲を祝し、八道の蒼生又た皇運の無窮を壽く、吾人は茲に謹んで陛下の万歲を祈る。

●渡り鳥の保護願

仁川警察署に一昨日大分縣生れの安達國一(三六)なるもの出頭し私は釜山の水產會社に雇れ居たるが此程解雇せられたれば陸路仁川に來り何か職にあり就かんとしたるも知人なければ如何ともなし難く路頭に迷ひ居れば宜しく保護せられたしと虫の好きことを云ひ居るにぞ警官は若き身を以て勞働したれば其の日の糊口に差し閊ゆのあるべき筈なければと懇々說諭を加へて放還したりと

●天然痘患者の數

本年一月十一日より三月廿三日迄の京城龍山の天然痘患者にして靑坡病院に收容せられたる數は四十九名外臨窒扶斯一名內京城二十四名龍山二十五名なりと

●天然痘患者の續出

仁川仲町一丁目中本きの(三〇)は一昨日天然痘に罹り直に避病院に收容せらる

●ヨボの無錢飲食

明治町一丁目辻屋方雇韓人李明雲(二三)は昨日午前一時三十分頃明治町飲食店明治亭事坂本佐次郎方にて無錢飲食をなして其筋に留置せられたるも雇主辻補氏より飲酒代五十錢を支辨する事となり將來を戒め放還せられたり

●病人の家出

壽町一丁目六十七大工職山口庄二郎(三十)と云ふは先月來病氣中なりしが兩三日前より精神に異狀を來たしたるものゝ如く去る廿四日午前十一時頃家出したるまゝ行衛不明となりしより昨日同人の妻スヱより搜索願を差出せりと

●韓妓の檢梅

仁川朝鮮敷島の韓妓檢梅は一昨日午後執行せられたるが受檢者四十八名の中一名の洗滌を要するものありて病氣不參者三名ありたりと

●三越呉服店の大賣出

本町三越呉服店にては來る四月一日より春期大賣出しをなし寄せ切れ類は非常なる廉價にて販賣する由なれば定めて盛況を見るべしと

さうめがね

▼旻天 詳の詩を唱しつゝ玄海灘に於て滿韓聯絡船天鷹丸の甲板上より投身したるは淸國人邦成文と云ふ三十六歲の肺病患者也

▼大每 擧行のマラソン大競爭に第一着の月桂冠を得たるは岡山縣在鄕軍人金子長之助二時間と二十分許りに二十哩とは痛快也

▼曝裂 彈を以て桂首相を暗殺せんとすと揚言したりし宇都宮の開產金三郎は其後警察醫の診斷にて精神病者と判り放還せらる

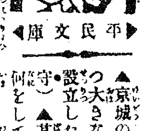
▼對馬 沖公海出漁中大鯨長さ約七間餘の物一頭を拾得したるは釜山牧の島洲岬居住の漁夫某にて其の價格は二千有餘圓也と

▼神奈 川縣高座郡大野村の金子光吉は徵兵適齡にて入營する身なるを苦にし府甲斐なくも鐵道往生を遂げたりとは呆れた奴哉

●韓語獨習

日語	韓語
毎年	マイニョン
明後年	ミョ゜クーニョン
前年	チエーニョン
翌年	イーツムハイ
幾年	ミョツタイ
一昨年	チエーチヤグニョン

◀平民文庫▶



▲京城の靑年間で一つ大きな歌留多會を設立したら奈何(夢守)▲某廳の會計は何をしてゐるのか六ケ月以前の出張旅費を未だに渡さないとは奇怪千萬(一寒生)▲某廳の會計課の雇員は他人の名義で同廳內の薪炭類を上納して暴利を貪り居るとは眞か(ヨボ生)▲貴社平民文庫は近來頗る面白くなつた希くば每日御掲載を願ひます(ケーオー生)▲彼新聞所載の小說佐倉宗吾は益々佳境に入つて來た僕は每朝其の配達が待ち遠くてならぬ(一小民)▲昨今の京城日報は餘程興行的になつたやうだ(鷄鳴生)▲姦誤婦君の投書高井病院の看護婦が遺失物の拾得者に對して不都合の擧措言動があつたと云ふことは非常の相違がある僕は現在其の場に居合はして其顚末を知悉して居る思ふに姦誤婦君は何かれ聞き違へがあつたと見へる既に此の事は兩者の主腦者が立會の上立派に解決せられたことだ僕は僕の名譽にかけて保證致します(本町益田生)▲下駄屋の娘さんの事での噂は一切モウ載せません(係り)▲京城の看護婦會內情は休載せずに出して下さいよ(被害者)▲段々と暖くなりましたが貴社に於て吾等小僧の爲めに運動會若しくは遠足會でも開き愉快に一日を遊ばしてくれませんか(浪人之守)▲仁川一山樓の幾代姉さん先晩は失禮君は商賈柄に似もせで能く彼の目鏡の君に盡して御出だね—彼の晩私が行つた時にも兎角沈んだ調子で更にジョウダンも言はず只彼の人が早く歸る樣に居生大事と彼の人より外には身を任かせる理想の人はないと言ふ風で至つて眞面目である實に同情に堪ゐん。然し去る者は日に疎しで聞けば彼の人は東都に居る、と、テモ何時的るものやら知れないのに商賈にも似ず能く守られるよ感心(同情生)

●訂正● 三月二十四日發行第六十五號農商工部購買廣告中五行目「見ル」の下「ル」は「ベ」の誤植に付訂正す

●天氣豫報(自廿五日午後六時至廿六日午後六時)

西の風晴

廿四日 最高溫度(華氏)四〇、三 最低溫度 二六、八

本日午前六時韓國氣象概況 昨朝日本海北部にありし低氣壓は尙滯停し却て滿州地方の氣壓上昇せし爲め風吹き荒み氣溫下降し概ね晴天なり

●大連行(船客取扱)
新潟丸 三月 日正午時出
●釜山長崎門司宇品行
山東丸 四月十一日後三時
●大連、太沽、牛莊行
高砂丸 三月 日正午
●大連、大沽、牛莊行
由良丸 三月三十日前五時
●大連、大沽、牛莊行
酒田丸 四月八日正午
●鎭南浦、元山、淸津、浦鹽行
立神丸 三月 日午後
御乗船ノ際ハ稅關波止場ヨリ御送迎ス御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ約五十分前ニ船解纜急迫出船ノ

●新聞料 ▲一ヶ月前金五十錢 ▲六ヶ月前金
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行 ▲廣告五號活字十九字詰一行
發行兼編輯人 秋山三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城 朝鮮新報社
電話六六三番